

# シャープシューティング体制による ヤクシカ計画捕獲導入評価に係る試験捕獲

平成30年度の結果にもとづき  
ヤクシカWGとしての「共通認識」の再確認

環境省九州地方環境事務所

## シャープシューティング体制とは...

- ✓ 一定レベル以上の技能を備えた専門的・職能的捕獲技術者の従事を前提とする、銃器を用いた**捕獲体制**の総称。給餌などにより動物を特定の場所に誘引し、原則として中枢を狙撃する誘引狙撃法は、シャープシューティングに適した方法の一つとされる。
- ✓ 高い捕獲効率の継続や「教育されたシカ」（最近ではeducated deerが使われる）の出現予防等を実現させるための科学的な配慮が必須とされる。

(鈴木・八代田2014)

シャープシューティング（体制論）≠誘引狙撃（方法論）  
（米国においては、体制さえ整っていれば弓矢による捕獲すら含まれる）

試験捕獲事業は...

「**第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画**」の実現に向けたOJT (On The Job Training) である

「**第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画**」の記述

- ▶ 捕獲効率の低下を避けるためにスマートディアを発生させないことを念頭に、生息密度や捕獲実施場所に応じた捕獲方法を参考にするとともに、アニマルウェルフェア(動物福祉)にも留意する。
- ▶ 計画捕獲の担い手については野生動物管理や各種法令に関する知識を有するとともに、実行計画の作成や状況に応じた捕獲に関する戦略を構築する技術を有し、安全管理や情報収集を実施できる捕獲体制を構築することのできる専門的な捕獲技術者等とする。

屋久島への「誘引狙撃」の導入を目的とする  
「技術移転」としての取組みではない  
(シャープシューティング≠誘引狙撃)

2

むしろ...

「**第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画**」の理念を基盤に

科学的・計画的な個体数管理を、  
継続的・自律的に実行し得る体制

(専門家や関係機関等を含む大きな枠組みとしての地元チーム) の

「社会実装」を目指す取組み

3

捕獲圧がない地域（主に保護地域）		生息密度	捕獲圧のある地域（主に保護地域外）	
地域（例）	捕獲方法		捕獲方法	地域（例）
・西部林道等の林道 ・林道沿い伐採地	囲いワナ	高	囲いワナ	・牧場
・閉鎖林道	SSIによる流し猟		忍び猟	・保護区との境界 ・総合自然公園等
・登山道・山小屋	忍び猟 (ライフル) (麻酔銃) (囲いワナ、箱わな)		巻狩り くくりワナ	・矢管地域 ・集落付近
・低密度を達成した地域	くくりワナ 遠距離狙撃 巻狩り		低	

図7. 生息状況及び捕獲実施場所に応じた捕獲方法

「第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画」H29.3より

- ▶ 屋久島では多様な方法の導入が必要（「誘引狙撃」に限らない）
- ▶ 地域の条件に合致する捕獲プロセスが大きな枠組みとしての地元チームにより立案され、外部に依存することなく、継続的・自律的に展開されることが理想

4

## 平成29-30年度試験捕獲事業の結果により実現された「第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画」の理念

- ✓ 「教育されたシカ」を発生させないことを念頭に、生息密度や捕獲実施場所に応じた捕獲方法
- ✓ アニマルウェルフェア(動物福祉)にも留意
- ✓ 安全管理や情報収集を実施できる捕獲体制を構築

5

具体的には...

## 「群れ全体」を捕獲する

- ▶ 頭部（脳）を狙撃することで、群れを構成する全頭を捕獲できる
- ▶ 「生き残り」を生じさせなければ、警戒心の高まった「教育されたシカ」の出現も予防できる
- ▶ 頭部（脳）の狙撃は「アニマルウェルフェアに留意した」手法である

<捕獲シーン動画を挿入>

6

## ライフル銃を使う

- ✓ 群れの全頭捕獲には頭部（脳）への正確な射撃を短時間に連続して実施できる射撃の技術と道具の準備が必要
- ✓ 散弾銃では、頭部（脳）に命中させられる程の精度（グルーピング）を期待できない

使用した装弾の性能（距離は左右とも50m）



スコープ倍率20倍で、じっくり狙った場合



現場を想定し、スコープ倍率は6.5倍に落とし、早目に引き金を引いた場合

7

# 環境と安全性に配慮する

- ✓ 非鉛かつ跳弾となりにくい「破砕型弾頭」を使用



<https://www.youtube.com/watch?v=P4jQsaqBGOY>

8

# OJTとしての効果

- 理念を実現するためのプロセスを体験
  - 情報収集ならびに科学性・計画性を担保することの重要性を実感
- 誘引（給餌）担当者，射手，観測手，運転手，回収担当者などの役割分担を体験
  - 共通認識とチームワークの重要性を実感
- 事前の打合せと事後の反省会にもとづく都度の改善を経験
  - PDCAサイクルを回す必要性と効果を実感 ...など

来年度は計画立案段階からのOJTとし、大きな枠組みとしての「地元チーム」体制強化を図り、継続性と自律性の強化を図る予定

9